
仮面ライダー

菅原 冴茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー

【Nコード】

N9253N

【作者名】

菅原 冴茶

【あらすじ】

Wの世界でドーパント（敵）が暴れ始めた最初は必死になって戦ったが何百体もいるからきりがなく仕方なく仮面ライダーの仲間に加勢を求めろが・・・

キバとの出会い（前書き）

楽しいと思いますのでよろしくお願いします

キバとの出会い

私は、フィオナと左 夏木はある世界を旅をしていた。（フィオナと夏木は仮面ライダーW）

その世界は、キバの世界。

フィオナ『きゃ何？』

夏木『あれは・・・敵、怖い』

それは、キバの敵スパイダーフィンガイア（3体）だった。

フィンガイア『け、け、け』

それを言った直後フィオナに襲ってきた。

フィオナ『きゃあ、助けてー』

ブロン・・・ブロン・・・

夏木『キバ・・・』

『フィンガイア、お前の相手は私よ』

（キバフォーム）

夏木『お、女子？』

キバ『ダークネスム・ンブレイク』

フィンガイア『ワァァ』

フィンガイアはダークネスムーンブレイクをよけた。

W『任して、変身』

『サイクロンジョウカー』

夏木¥ジョウカーメモリ

フィオナ¥サイクロンメモリ

フィオナが倒れた

W『逃げちゃ駄目だよ』

フィンガイア『けっけっけっ』

W『ジョウカーエクストリーム』

フィンガイア『わーー』

W『終了』

キバ『あなた強いよね』

夏木『別に、そうでもないよ』

フィオナ『あなたの名前は？』

キバ『紅 美鈴よろしく』

フィオナ『よろしくね』

美鈴『てか何でwがこの世界に居るのですか?』

夏木『あの、私たちの世界で、ドーパントという敵が暴れまわっていて』

フィオナ『戦っても、何百体居るからきりがなくて』

夏木『だからキバに手伝って欲しいと思ひまして』

美鈴『いいよ、手伝ってもらったから手伝います』

夏木『ありがとう』

フィオナ『そういえば、あともう一人仮面ライダーの助けを求めますか』

美鈴『3人より、4人の方が勝つ効率が高いと思いますが』

夏木『じゃあそうしましょう』

キバとの出会い（後書き）

また、見てください

仮面ライダー響鬼の世界（前書き）

キバの世界からやってきた美鈴^{キバ}とフィオナと夏木一休これからどうなるのか

仮面ライダー響鬼の世界

響鬼の世界に灰色の光が現れたその中から夏木、フィオナと美鈴が出てきた

夏木『ここは、住宅街なのにやけに静かですね』

美鈴『本当に来れるとは思ってなかったです』

フィオナ『普通は、そう思うでしょう』

夏木『ちよつと、歩いてみましょうか』

美鈴『あつちから、悲鳴が』

フィオナ『行ってみましょう』

3人は走って悲鳴の聞こえた場所に行った

夏木『ハア・・ここはどこですか』

美鈴『あつ、あそこに敵が』

フィオナ『魔化魍だよきつと』『クワガタみたいな形』

通りすがりの人『きゃああああああああ』

ブロン・・ブロン・・

夏木『あ、あれは仮面ライダー響鬼』

美鈴『戦い方をみましょう』

2人『はい』

響鬼『お前の相手は、この俺だぜ』

魔化魍『グゲ?』(なに?)

響鬼『ほらほら、攻撃してみろよそのヘナチヨコ』

魔化魍『グググググ』(怒ったぞ)

響鬼『早く来いよばーか』

魔化魍『いくぞ』

響鬼の後ろ行き5発殴った

響鬼『痛ってー、俺の必殺技をみしてやる』

響鬼『火炎連打の型』

ドンどこドンどこ

魔化魍『や、やられたー。』

美鈴『あの一ー』

響鬼『なんだい？』

夏木『私たち仮面ライダーなんですけれど響鬼さんですよ』

響鬼『嘘でしょう。君たちみたいな子どもが仮面ライダーなんて』

夏木『フィオナ変身』

サイクロン、ジョーカー

美鈴『変身、キバット』

響鬼『本当だったんだ、ごめんねあなた達は仮面ライダーwとキバ？』

w、キバ『はい』

響鬼『なぜ、この世界に来たの？』

夏木『私のwの世界は今まで平和でした、でも、ある日ドーパントという敵が現れました、wは必死に戦いましたが何百体もドーパントがいたのできりがありませんでした、なので最初にキバの世界に行き助けを求めました、2体よりも、3体といますからお願いです。wの世界を救ってください』

響鬼『俺の名前は響 大介よろしく』

響『wの世界を救いましょうもう、これから行きましょう』

『はい』

仮面ライダー響鬼の世界（後書き）

みなさんどうでしたか、楽しんで読めましたでしょうか。これから
も、書きますのでヨロシクお願いします。

決着の前1（前書き）

夏木とフィオナは、2人の仮面ライダーを連れてwの（自分の世界）に帰ってきたこれから、敵と戦う時にもう一人の仮面ライダーが現れる

決着の前1

夏木『私たちの世界に戻ってきましたね』

フィオナ『これから、敵と戦っていかねければならないのね』
ドールバント

美鈴『そうよ』

その時、上から『とー』という声が聞こえた

フィオナ『なに？』

夏木『あれは仮面ライダーディケイド』

美鈴『あの人がいるいろんな世界を滅ぼした人？』

ディケイド『俺は、そんなじゃないよ』

作『滅ぼしたのは、本当ですけど』

作Ⅱ作者

ディケイド『嘘だーい』

夏木『子どもみたい』

美鈴『本当だ』

作『クスクス・・・』

ディケイド『笑うことでもないやーい』

フィオナ『何で、wの世界に？いるんですか』

ディケイド『風の噂なんだが、wが仮面ライダーの仲間を探しているって聞いてな』

夏木『一応、私とフィオナがwで美鈴さんがキバで大介さんが響鬼だけだ。』

美鈴『一緒に戦ってくれるのですか？』

ディケイド『ああもちろんさ』

大介『皆さん 俺のこと忘れてない？』

美鈴・フィオナ・夏木『ぎゃあああああ・・・』

大介『そんなに、驚かなくても、いいんじゃないかなー』

美鈴・フィオナ・夏木『ごめんごめん』

ディケイド『戦うときのために今日は、早く寝よう』

夏木『戦うのは、明日では、ありませんドーパントにはあさって

来るようにといいましたから』

作『そんなことができるのですかねー』

デイケイド『わかりました、でも眠いので寝ます』
いま、午後7時です。

作『寝るの早くね!!!!』

では、また次話で・・・

デイケイドの名前は尾崎 慎吾

決着の前1（後書き）

作『それにしても慎吾は寝るの早くない？』

夏木『でも、戦いが長引いた時には嫌なことですね』

作『そうだね、夏木あとは、寝させないようによろしく』

夏木『分かりました』

皆さん読んでいただきありがとうございました。

決戦の時（前書き）

作『ディケイドは本当は色々な世界を滅ぼした人なんだってね』

フィオナ『そうだと思います。』

夏木『この話は、後にして、第4話め始まります。』

作『ちよつとまってよー』

決戦の時

夏木『あ、敵が来ましたよ』
ドンパント

フィオナ『では、』

夏木・フィオナ『変身！』

『サイクロン・ジョーカー』

W『変身完了』

美鈴『変身、キバット』

キバット『ガブツ』 キバット『キバの変身するときの道具？
みたいな物』

キバ『変身完了』

大介『変身』

響鬼『変身完了』

慎吾『変身』

ディケイド『変身完了』

W・キバ・響鬼・ディケイド『じゃあ、ひと暴れますか。』

みんな『うおおおおおお』

ドーパント『きゃきゃきゃ』 (何千体)

キバ『あれ、？何百体って言ってなかった？』

W『増えてますね』

キバ『必殺技ダークスネムーンブレイク』 (キバフォーム)

ドーパントはこの技で一気に50体も倒した

この戦いの続きはまた今度、

決戦の時（後書き）

作『疲れました』

キバ『こんな時こそ、私の必殺技でめを覚まさしてあげようか？』

作『それは、一番イヤだから、遠慮するよ』

キバ『作者に目を覚まさせるのに時間がかかるからまた次回お会いしましょう。』

ドーパントVS仮面ライダー1（前書き）

4体の仮面ライダーでWの世界の敵と戦っていたその時、
ドーパント
・・・

ドーパントVS仮面ライダー1

美鈴『今日から、本格的に、ドーパントと戦う』

フィオナ『準備はいい?』

夏木『私は、変身したらokよ』

大介『俺も、バッチシだぜ』

慎吾『俺も・・・大丈夫だ』

作『数秒の沈黙は何だったんだろうか』

美鈴『それは、置いといて変身』

美鈴『キバット』

キバット『ガブツ』

キバ『変身、完了』

フィオナ・夏木『変身』

『サイクロン・ジョーカー』

W『変身、完了』

大介『変身』

ドーパントVS仮面ライダー1（後書き）

作『皆さん、楽しく読んでいただけたでしょうか、』

フィオナ『この作品で本当に皆さんが楽しんでいただけたとおもっています？』

作『そうは、思いはしないと思うけど、』

フィオナ『そうに決まってるじゃん』

作『はい、ううううえええええーん』

フィオナ『あんな作者はおいといて、次話もどうぞ、読んでみてください』

ドーパントVS仮面ライダー2（前書き）

作『今日は、宿題が簡単だったので、小説をかいていたら、肩が疲れてやばいほどカッチカッチに』

夏木『そんな事は、おいといて、6話めはいります』

ドーパントVS仮面ライダー2

W『はぁぁー』

キバ『きりがない』ガルフフォーム

響鬼『もう、俺駄目かも』

W『あきらめないで』

キバ『必殺技ガルル・ハウリングスッラシュ』

ドーパント『うぎゃー』

響鬼『あと、5000体ぐらいいるぞ』

W『必殺技ジヨウカーエクストリーム』

響鬼『あと、4500体ぐらいだ』

キバ『それまで、体力がもつかどうか』

W『順番に、10分間戦ってずつ、その間にほかの仮面ライダーが休めばいいと思う』

全員『それはいい考えだ』

W『じゃあ、最初は、私、次は、キバ、次は響鬼』

響鬼『あれ、？デイクイドは？』

W『自分の世界に帰っちゃった』

キバ『帰るんなら、最初から来なければいいのに』

全員『納得』

W『じゃあ、私が戦って来るからみんなはやすんでいて』

キバ、響鬼『うん、ありがとう』

ドーナツVS仮面ライダー2（後書き）

作『久しぶりに更新したよー』

フィオナ『良かったね』

夏木『早く、また更新してよ』

作『はい、みなさんこれからもよろしく願います』

あの人たちがここに・・・（前書き）

作『ハロー、今日は、新しい人が出るよ楽しみにしてね』

あの人たちがここに・・・

リュウセイ『みさんこんにちは』

フィリア『リュウ！みなさんのな忘れてるよ』

リュウセイ『ごめんごめん』

フィリア『あつ、みなさんこんにちは、私は、フィアナ、でこの人は、リュウセイ（リュウ）今、二人で旅をしています』

リュウ『あっドーパント』

フィリア『あそこで、仮面ライダーたちがたたかっている』

リュウ『戦っているのは、w、キバ、響鬼だな』

フィリア『もしかして、一緒に戦うつもりじゃないでしょうね』

リュウ『よく、分かったな俺は、もちろん、たたかうぜ』

あの人たちがここに・・・（後書き）

作『新しく、出てきたのは、リュウセイとフィアナかー』

夏木『一緒に戦ってくれるのは、ありがたいけど、なんか不安が少しあるよ』

作『まあ大丈夫でしょう』

夏木、『でも・・・そんな事はおいといで、では、次話も読んでください』

おれ、参上（前書き）

作『楽しく、よんでください』

おれ、参上

キバ『きりがない』

響鬼『もうちよつとだ、あと200体ぐらいだぞ』

W『頑張ろう』

プウーン・

W『あれは、デンライナー』

キバ『つてことは、電王がいるはずじゃ』

良太郎『こんにちは』

W『そんな事言っている場合じゃないよ』

良太郎『変身』今は、モモタロスが入っている

電王『おれ、参上!!』

キバ『はいはい、それはここでおしまい』

電王『エクストリームスラッシュ』

ドーパント『うぎょおおお』この攻撃で20体倒れた

キバ『私が、戦うみんなは、下がっていて』キバフォーム

キバ『ダークネスムーンブレイク』

ドーパント『うぎょおお』この攻撃で、50体倒れた

この必殺技と同時に、キバの変身が解けた・・・

W『大丈夫？美鈴』

美鈴『大丈夫、心配しないで』

W『戦うから、安全な場所に行って』

美鈴『がんばって』

おれ、参上（後書き）

作『読んでいただきありがとうございました』

電王の技、助け網に

夏木『美鈴のためにも、私が頑張らなければ』

フィオナ『うん』

美鈴『きゃあ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!』

夏木『どうしたの』

響鬼『いま、急に、ドーパントがきて、美鈴が抵抗したところ、10体が突然きえた』

美鈴『なぜ、きえたの』

電王『おれ、参上!!』

夏木『無視して、響鬼あと敵は何体ぐらいいる?』

電王『無視された』

響鬼『あと、100体』

夏木『わかった、電王!!!!、キンタロスが乗り移ってもらって、』

電王『俺の強さに、お前がないた』

フィオナ『そんな事は、どうでもいいから、早く、攻撃をしなさ

い
』

命令だ――

電王『分かった、必殺技ダイナミックチョップ!!!』

この技は、まったくきかなかった

電王『なに???、ウラタロス!!!入れ』

電王『僕に釣られてみる?』

誰も、反応しなくなっていた

電王『必殺技、ソリッドアタック』

この技は、ドーパントを20体倒した。(あと、約80体)

夏木『よっしゃー』

フィオナ『夏木!!!男前!!!』

(夏木はつつこんでいる暇はなかったので、心のなかで、つつこんだ)

(ちやうわ、このポケ×10)

美鈴『助かった』

電王の技、助け網に（後書き）

作『この続きは、次話で』

夏木『そんな事、知っているわ』

作『夏木なんか、つつこみ激しくなったね』

夏木『そうかなー』

作『じゃあね』 バイ

決着（前書き）

作『10話目なので、見てください』

夏木『こんな作品ですが、どうぞ、最後まで見てやってください』

――『では、始めます』

決着

電王『みんな反応してくれないし、つまらないな』

W『だって、みんなが反応しないのは、あなたの言葉が、面白くないからだよ』

電王はちょっと、静かになったのであった。

響鬼『よし、静かになった！！、残りの敵は、80体』

W『この様子なら、大丈夫だね』

電王『大丈夫、大丈夫』

響鬼『こいつが、大丈夫と言うとなんか心配になって来る』

また、電王が静かになった。

美鈴『ごめんね、戦えなくて、』

W『別にいいよ、』

響鬼『うん、じゃあ攻撃だ』

電王『俺、参上！！！！』

全員無視！！！！

W『必殺技、ジョーカー・エクストリーム』

ドーパント『うぎゃあああああああああ』

この攻撃で、50体が倒れた

電王『いいじゃん、すげーじゃん』

やっぱり、チャライので、みんな無視!!

響鬼『必殺技・火炎連打の型』!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

!!!!!!!!!!!!!!

ドーパント『うぎゃあああああああああああ』

この攻撃で、30体が倒れた

美鈴『終わった、この戦いが終わった、』

W『今度こそ、私達の世界が平和になった』

響鬼『変身!解除』

W『変身解除』

電王『終わった、終わった、変身か、い、じょ』

夏木『でも、みんなの世界を守んなきゃ』

フィオナ『そうだよ、守らなきゃ』

美鈴『大丈夫です』

響『大丈夫、電王のデンライナーで、前の時間に戻ればいい』

夏木『本当？』

響『そうだ、夏木！これあげる』

これとは、Wと書いてあるネックレスであった。

夏木『Wって、私達じゃない？』

響『そうだよ、一応、あげるために、作つといたんだ』

夏木『本当に、これくれるの？』

響『ああ、じゃあ、あばよ、また会おうぜ、それに、こんど響鬼の世界こいよな』

夏木『うん、じゃあね、電王よろしく』

電王『分かったぜ、あばよ、』

フィオナ『じゃあ、またいくぜ』

男言葉になった、フィオナであった。

電王・響・キバ『じゃあな〜遊びに、来いよ』

3年後・・・（前書き）

3年後は、もう中学生です

3年後・・・

夏木『あの、大事件から、もう3年が経つのか・・・』

フィオナ『あの時は、みんなに助けてもらったなあ』

夏木『あの、決着のあと、あれから1度も会っていないよね、また会いたいな』

フィオナ『会いに行ってみようか』

夏木『それいい考え!!!!よし行こう』

ガチャ・・・

デンライナーの中・・・

モモタロス『へー良太郎と友達なんだな』

夏木『はい』

ウラタロス『僕に釣られてみる?』

フィオナ『?意味不明です』

キンタロス『・・・』

夏木『なんか喋れよ、このデカ』

キンタロス『・・・・・・・・・・・・・・・・』

夏木『まだ喋らないのかよ!!!!』

リュウタロス『ダンス大好きリュウタロスです、二人とも可愛い子じゃん』

フィオナ『殴っていい?』

リュウタロス『ご遠慮します、それに、僕の美しい顔に変な後ついたら嫌だし』

良太郎『遅れた、遅れた』

モモタロス『良太郎!!!!こんな可愛い子待たせてなにやっているんじゃ~~~~』

良太郎『夏木とフィオナいらっしやい、あれから、もう3年も経ってしまったね』

夏木『あの頃は、まだ良太郎も中学生だったのに、いまは、もう高校生か』

良太郎『そうだよ、だって、君も、もう中学生じゃんか』

フィオナ『それは、そうだけど、だって、良太郎大きくなったもん』

・・・・・・・・・・・・・・・・

夏木 『そんなわけで、響の世界やら、キバの世界やら、関係ないけど、ディケイドの世界に行ってみたくなくなっただけ』

『おじいさんぽくなっちゃった』

フィオナ 『そういうことで、連れて行ってね』

良太郎 『任しとけて』

夏木 『では、よろしく』

到着・・・・・・・・・・です・・・・・・・・（前書き）

作『私の作品も、いっぱいになりましたの〜』

夏木『あほ！！！これだけで、満足しちゃいけないよ』

作『は〜いでは、12話始まります』

到着……………です……………

良太郎『そういえば、ディケイドって、途中で帰った奴だよね』

夏木『そうで〜す』

フィオナ『じゃあ、ディケイドの世界は、通り過ぎてね!!響鬼の世界にレッツゴ〜』

良太郎『了解しました』

……………

響鬼の世界……………

フィアナ『着いた〜』

夏木『……………ってか、響何処だよ!!!!!!』

……………誰も知りません……………

良太郎『多分、森の中でも、入ってんじゃないの?』

フィオナ『そうかもね!!!!!!良太郎 ……!!』

えっ!!!!!! ……もしかして、フィオナって、良太郎の事好きなの以外!!!!!!

響『もしかして、夏木と、フィオナと、良太郎か?』

夏木 「これからさ、キバの世界に行くんだけど、響も行く？」

響 〽 行くゝ夏木に着いて行くゝ 〽

まあ、正直言って、私も嬉しいけど……

キバの世界・
・
・
・

美鈴　　「ハクション!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

キバツト「誰かに噂されたか？」

美鈴「多分、噂するとしたら、Wの夏木や、フィオナでしょ!!」

キバツト「そういえば、あの戦いから、もう3年経ったな」

美鈴「そうだね、会いに来てくれるかな」

キバツト『さあな』

響鬼の世界・
・
・
・

夏木「ねえねえ、響の好きな食べ物は何？」

響『あたし、サクランボ〜』

夏木『大塚 愛之助じゃん』

「本当は、大塚 愛さん

響『じゃあ、お前は、どうゆう恋がしたい?』

夏木『先輩と後輩関係の恋みたいな感じ』

響『つかさ〜俺さお前の事好きなのに、返事聞いてないんですけど』

えっ!!

夏木『分かれたときに言ったと思ったけど』

響『聞いてないんですけど』

夏木『私は、響のこと多分好きじゃない』

響『ひでー事言っな』

夏木『・・・・・・・・・・・・・・・・』

響『好きだから、これだけは、言っておく』

キバの世界に到着・・・・・・・・キバットバット4世って何者？（前書き）

作『夏木 と響のこれからの関係が、気になりますな』

キバの世界に到着・・・・・・キバツトバツト4世って何者？

デンライナーの中・・・・・・・・・・

フィオナ「良太郎！！！！まだ着かないの？モモちゃん遊ぼう」

モモ「俺に、気安く触るんじゃねー」

フィオナ ．．．．．悲しいよー

こんなに、フィオナって、泣き虫だったけ？

良太郎『はいはい、モモタロスイイ加減しろ!!!!!!!!!!!!!!
!!!!!!!!!!怒るよ!!!!!!!!!!後、10分ぐらいで、着くから、もう少し待
っていてね』

モモ

良太郎凄い！！！！モモタロス黙っちゃったよ

響『美鈴に会えるのか………！楽しみ………！！！！』

「……………」

夏木 「そうだ、響来て!!!!」

響 〽
? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?

夏木 「昨日は、ごめんなさい！！！！、あれからよく考えたら、私も、響好きなのかな？って思っちゃってさ」

響『分かった！！！これからよろしく！！僕の彼女さん』

・・・・・・・・・・・・・・・・

キバの世界・・

美鈴『皆に会いたいな』

プーン

美鈴『デンライナーだ、どうして、ここに？』

夏木『美鈴~~~~~~~~~』

美鈴『夏木！！！！！！！！！！』

抱きしめあった、

フィオナ『美鈴久しぶり！！！！一応、響と、夏木、良太郎と私
で、来たよ』

美鈴『今ちょうど、会いたくなつたところ』

キバット『何やってるんだよ！！！！美鈴キバットバット4世が来
たのによ』

・・・・・・・・・・・・・・・・誰こいつ？

美鈴『もう』

響『あれ？3年前は、キバットバット3世じゃなかったけ？』

美鈴『なんか、昨日から、入れ変わっちゃったみたいで』

フィオナ『地球の本棚に、キーワードを入れて』

夏木『まず、キバットバット4世』

フィオナ『いっぱいある』

．．．．．まだかしら

夏木『入れ変わった』

フィオナ『あつたわ！！！！』

フィオナは、地球の本棚の中の、目の前に現れた、灰色の表紙の本を取り出し読んでいた．．．

夏木『フィオナ！！分かった？』

．．．．．大丈夫かな？

フィオナ『分かったわ！！、ちよつと美鈴に質問だけど、昨日才ーロラが現れなかった？』

美鈴『昨日、確か！！金色の、オーロラが、現れたわ！』

フィオナ『更新された情報によると・・・キバットバット3世は、今は、ディケイドの世界に居るみたい!!!、なぜかというと、金色のオーロラは、ディケイドの世界に繋がっているのですもの、Wの世界へは、水色など、あるけど』

夏木『という事は、このキバットは、偽者なの?』

フィオナ『うん』

夏木『許せないよ!!!行くよフィオナ』

フィオナ『YES』

<サイクロン・ジョーカー>

フィオナが倒れた・・・

W『キバット、待て』

キバット『ふえ?』

といった瞬間

W『ジョーカーエクストリーム』

ドカーン・・・

夏木『終了!...!!って、こいつどつするっ...』

フィオナ『焼く!!!、燻る』

フィオナ!!!残酷ってこうゆう事だったんだね

金色のオーラが現れ・・・ディケイドが出てきた

慎吾『ハロー、仮面ライダーの諸君!!!あんな、今回は、ちょっと、用事で来たんだが、こいつって、キバの、奴じゃねーのか?』

キバット『放せ!!!俺は、キバットバット3世だぞ』

美鈴『キバット!!!!無事だったのね』

・・・・・・まあ、良かったわね

良太郎『じゃあ、今日は、Wの世界に戻って、パーティーするかい』

夏木『それいい考え!!!!!!では、私達の世界に1回帰りましょ
う!!!!!!皆ついてきてね』

Wの世界で、パーティです……か???・（前書き）

作『色々書いていると、前書きや後書きがめんどくさいくなる』

フィオナ『あゝそんな事言っただけなんだ?』

作『駄目でした、では、仮面ライダー14話始まります』

Wの世界で、パーティです……か???.

夏木『良太郎!!! ありがとさん、では、買出し行かなきゃ、こんな人数の食べる材料なんてないや』

フィオナ『うちの、冷蔵庫空っぽだもんね』

夏木『そうそう』

良太郎『これ、姉貴作ってくれたんだけど、おすそ分け』

……. 姉ちゃんっているんだへえ

フィオナ『ありがと、良太郎!!!!!!』

響『俺、買出しに行ってくる!!!!!! 夏木ついてきて!!!!!!』

夏木『うん、いいよ』

おゝなんか、誘われちゃったゝゝ

美鈴『あのさ、またディケイド帰っちゃったけど、…….』

フィオナ『まあ、自由なのが、ディケイドなんだからさ』

まあ、そうだよな、ディケイドだもんね

なんか、みんな、納得して、響と夏木は、2人で、買い物に行った

そのころ、

美鈴『つてさ〜響と夏木超LOVE×2じゃん』

良太郎『そくだよね、美鈴!!!!!!』

美鈴『だね、良太郎!、でも、このころ、響も、積極的になったよね』

良太郎『そだね、夏木を取られてたくないんじゃないのかな? ? ? ?』

良太郎『つて、もしかして、美鈴の事が好きなの? ? ? ? 私は、好きじゃないの? ?』

良太郎『帰ってくるの待とうね』

美鈴『うん、そくだ、ちょっと冷蔵庫のぞいてみよう』

ガチャ…………

フィオナ『一応私も、居るからね』

美鈴『ごめん、勝手にのぞいちゃった……、あつ野菜がいっぱいある、これで、野菜炒めでも、作っとくか〜』

フィオナ『私も、手伝う、良太郎に、食べさしたい!!!!!!』

美鈴『じゃあ、お願いする』

良太郎『フィオナは、料理上手なのかな??? 食べてみたいな
、早く作って』

フィオナ『はい』

一方、Love x 2の2人は???

響『この、スーパーでいいの?』

夏木『良いんだよ!!!』

響『えっと、お肉と、サラダ油、牛乳などなど、だって』

夏木『私、サラダ油を探してくる、響は、お肉選んで』

えっと、これだよね、・・・あれ??? ドーパント・・・

響『夏木、サラダ・・・ドーパントだね』

夏木『多分・・・』

<サイクロン・ジョーカー>

急に、フィオナが倒れたので、みんなビックリ

W『ジョーカーエクストリーム』

W^{フィオナ}『夏木！！！急に呼び出さないでよ、ビックリしちゃったじゃん』

W（夏木）『ごめん、マジで、こんど、お菓子買ってやつから』

・・・駄目かな

『いいよ』

単純！！！

ドーパントとまたまた戦い????? (前書き)

作『仮面ライダー』ももうすぐ完結????、今まで、読んでくださったみなさん、ありがとうございます』

夏木『こんな作者は、放っておいて、仮面ライダー 第15話、始まります』

ドーパントとまたまた戦い?????

なつき
W『せっかく、戻ってきたのに、何で、ドーパントいるのよ!!』
!..!』

響『しらね〜よ』

フィオナ
W『もう、早く終わらすからね』

~~~~~今日は、不機嫌だな、フィオナ

W『ジョーカー・エクストリーム』

ドッカン

<変身・解除>

響『大丈夫だったか???夏木????¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥』

夏木『うん、ってか、絶対もうあの顔は見たくないぐらい前に見たから、もう絶対に見たくない!』

響『俺も、同感だ』



家・・・・・・・・

フィオナ『はあ、疲れた』

良太郎『大丈夫？？倒れたけど』

・・・・・・・・

フィオナ『だって、変身してたもの、仕方ないじゃない』

良太郎『フィオナ可愛い』

ぎゅ！！！！

きゅん！！！！

美鈴『良太郎を、フィオナに取られちゃった』

夏木『ただいま』

これでおしまい……！（前書き）

作『仮面ライダーこれでおしまいです。いままで、ありがとうございました』

では、最終話始まります、では、仮面ライダー第16話始まります



美鈴・フィオナ『かつこいい〜』

親ばかりではなく、友馬鹿かな?????

夏木『これからも、ずっと、みんな、一緒だよ!!!!!!』

全員『うん!!!! 一緒!!!!!!』

これが、みんなの誓いだった。

そうして、宴が終わり

デンライナーで、各世界へ守りに行ったのであった。

一応言って置くが、恋人同士は、たまに会うぞ〜

これでおしまい！……！（後書き）

今までありがとうございました

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9253n/>

---

仮面ライダー

2011年10月7日23時46分発行